

特集

老衰で

家で最期まで

超高齢社会における 在宅終末期医療のあり方を考える

超高齢社会となった今、地域医療に「看取る力」が期待されています。

がんなど急激な経過をたどる場合もありますが、慢性疾患を複数抱え、ときに増悪と回復を繰り返し、ときおり入院しながらも在宅で暮らす……そんなゆっくりとした経過を辿る高齢者も多くいます。

そんな「老衰」の経過に付き合い、寄り添い、支えるには、どんな医療が地域にあればよいのでしょうか？

最終的に、本人にも、家族にも、周囲の人にとっても「いい看取り」となるような最期とは、どのようなものなのか。「その人らしい最期」を支えるためには、何が必要なのか。

地域で「老衰」を最期まで支えきる実践をされている医療者のナラティブを中心に、医療・家族・倫理など、いろいろな方向から答えを探る特集です。